

地元報告会（自然遺産しれとこ「科学教室」）について

1. 目的

科学委員会の取組や保全管理上の課題・対策を広く地元で紹介するとともに、科学委員会委員と地元住民との交流、意見交換を行う。

2. 実施主体

主催：知床世界自然遺産委員会事務局（環境省・林野庁・北海道）

協力：斜里町、羅臼町

3. 開催状況

【第1回】（平成23年7月25日 於：羅臼町 参加者：56名）

第I部

タイトル	「根室海峡のスケソ漁 ～これまで、今、そしてこれから～」
講師	桜井 泰憲（海域WG座長）
内容	海洋環境の変化と、それにもなう魚類資源の動向などについて解説。

第II部

タイトル	「地球温暖化と知床の水産業」
講師	牧野 光琢（海域WG委員）
内容	地球温暖化がスケトウダラなどの重要水産資源や地域社会に与える影響について最新の研究成果を説明。

【第2回】（平成23年8月17日 於：斜里町 参加者：16名）

タイトル	「シカが知床の風景を変える」～エゾシカの急増と植生への影響～
講師	石川幸男（エゾシカ・陸上生態系WG委員）
内容	フレペ遊歩道を散策しながらエゾシカが植生に与えている影響について解説。

【第3回】（平成23年10月15日 於：斜里町 参加者：13名）

タイトル	海と森のつながりを取り戻せ！～魚から見たよい川とは？～
講師	中村 太士（河川工作物AP座長）
内容	イワウベツ川河口から魚が遡上できるよう改良された白イ川の治山ダムまでを散策し、河川工作物の改良に至るまでの経緯と改良のポイント、改良後の効果について解説。